

のに、ずいぶん協力してくれました。」

田善は、だまつてうなずきました。

玄真先生は、手にしたせんすであおぎながら、熱心に話を続けました。

「しかし、残念なことに、まだ解剖図かいぼうずがないのです。そのため、頭、胸、腹の形や位置をはつきり見せることができないのです。」

田善は、身をのりだして言いました。

「さし絵は、文字と同じような役割をもっています。いや、文字以上の役目を果たすかもしれません。文字は学ばなければ、その意味がわかりません。しかしさし絵は、たとえ文字を読めなくとも、その意味がだいたいわかるのです。」

玄真やそばにいる二、三人の弟子たちは、深くうなずきました。

玄真先生は、ぶ厚い本を、ぱらぱらめくりながらいきました。

「それにしても、オランダの絵はすばらしいです。海や山をえがいても、遠くのものとは遠くに、近くものは近くに見え、まるで本物の風景のようです。人の顔